

No  
29

## 安全に気をつけて道路を歩こうとする。

…元気な子ども…

一緒に歩こう

交通ルールを守りながら散歩を楽しむ

11月

### ☆ 視点に関わる背景（10月中旬頃までの状況） ☆

- ・年少児の時から毎月「交通安全教室」に参加し、道路の歩き方や信号の見方、横断の仕方、飛び出しの危険等、指導を受けている。
- ・家庭では歩く機会が少ない子が多いので、体力作りを兼ねながら、園周辺の散歩を楽しんでいる。様々な条件の中で歩く機会を持ち、その時々安全な行動を知らせている。

### ☆ 接続期の状況（七五三行事） ☆

子どもの姿・子ども同士のかかわり	保育者の援助・視点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児4名、年中児以下12名の混合クラスである。</li> <li>・自然観察や園周辺の環境に目を向けさせながら楽しませてきた散歩も、11月に入ると長めの距離を歩けるようになったので、七五三行事に合わせて神社までお参りにいく。</li> <li>・町中を歩いたり、信号のある横断歩道を渡ったりするので、楽しい中にも交通ルールを守ることの大切さを話している。</li> </ul> <p>・二人組で手をつなぎ、歩道や道路の右側を歩く。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・話に夢中になったり、周りに目が行ったりし、車道の方へ行ってしまう子、駐車場や路地に気付かない子がいる。</li> <li>・「こっちを歩こう」と道路の近くに行かないように教える子がいる。</li> <li>・横断歩道では年長児が手本を示すように元気に「三本指の約束」を行い、信号を見たり、自動車が来ないか見たりして渡る。</li> </ul> <p>「私は必ず止まります。右を見て、左を見て、もう一度右を見て、信号は青です」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黄色信号に気付いて足早に渡る子、気付かずそのまま渡ろうとする子等、個人差がある。</li> <li>・神社までの往復40分の距離を元気に歩く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児と年中児、又は年齢の高い子と低い子をペアにする。</li> <li>・周囲の環境に興味を持たせながら、一人一人の行動を予測し、安全に歩けるようにする。</li> <li>・駐車場や路地は見落としがちなので、気付けるような声掛けをする。</li> <li>・自分で危険に気が付いたことを褒める。</li> <li>・よく見る事、右手を高く上げる事を促す。</li> <li>・上手に話せたことや、目で確認したことを褒める。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・黄色信号の際の行動について指導する。</li> <li>・歩いて登校する事に期待を持てるよう、近くに小学校があることを知らせる。</li> </ul>

### ☆ 接続期の指導場面における配慮事項 ☆

小学校では歩いて登下校するので、元気に歩くことができる体力と、安全に登下校できる判断力を身に付けさせたい。交通安全教室に楽しく参加したり、実際に散歩の時間に経験したりしながら、安全に関する興味を持てるようにすることが大切である。交通ルールを覚えても実際にはまだまだ、判断が難しい年齢であるが、子どもが判断出来たことを認めたり、褒めたりして、自信が持てるようにしている。